

『 ぱんだより 』

※パンダからのお便りという意味で「ぱんだより」と名付けました。
 スパークスのアジア地域における情報発信レポート

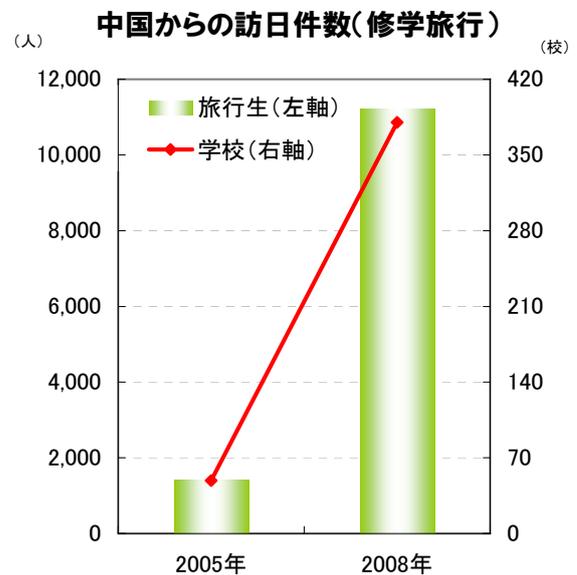
第16号(2008年10月15日)「修学旅行は日本へ！」



修学旅行ブーム

修学旅行と言えば、小学校、中学校、高等学校の教育の一環として、社会科見学などを伴う思い出作りの大切な行事です。ヨーロッパでも古くから泊りがけの旅行は学校行事として存在しているようですが、実はアジアでは日本、韓国、また台湾以外は一般的ではないようです。

しかし、経済的に豊かになった中国では一部の地域において、修学旅行、しかも海外への旅行が始まっているようです。2004年9月から日本政府が中国人修学旅行生に対して、査証取得を免除し、簡便な手続きで訪日できるように規制緩和をしたのが訪日修学旅行ブームのきっかけとなりました。それにより、日本を訪問する中国人修学旅行生の人数は、毎年倍増しています。右のグラフを見ると、日本を訪れた中国の修学旅行生は、2005年の49校1,420人から、今年は380校1万1,200人に急増、ついに年間1万人を突破しました。中国で大人気の日本アニメや進んだ科学技術などが中国の子供たちの心を引きつけているようです。引率の先生も、「日本人はとても真面目で、気が利くし、誠実に接客してくれて感動しました。」と高い評価の声も多いようです。



出所：外務省、2008年9月

海外修学旅行は名門校の評価基準に

日本への修学旅行の旅費は、5泊6日のコースで1人あたり約8千元(約13万円)で、中国の一般の大卒初任給の4.5カ月分ともなります。欧州であれば同じ費用で8ヶ国周遊でき、訪日の割高感は躊躇させる原因でもありました。それでも修学旅行件数の増加は中国の豊かさの現れでもあるのではないのでしょうか。しかしまだ日本に限らず海外への修学旅行を体験できるのは、ごく一部の生徒に限られ、導入した学校は北京、上海、シンセンなどの富裕層の子供が通う学校が大多数のようです。実際、中国では学校間の競争も激しく、学校の善し悪しの判断基準として対外交流の有無が挙げられ、名門校であればあるほど海外への修学旅行のプランを特色の1つとしてアピールしているようです。



本資料は、スパークス・アセット・マネジメントが情報提供のみを目的として作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。また特定の有価証券の取引を勧誘する目的で提供されるものではありません。スパークス・アセット・マネジメントとその関連会社は、本資料に含まれた数値、情報、意見、その他の記述の正確性、完全性、妥当性等を保証するものではなく、当該数値、情報、意見、その他の記述を使用した、またはこれらに依拠したことに基づく損害、損失または結果についてもなんら補償するものではありません。ここに記載された内容は、資料作成時点のものであり、今後予告することなしに変更されることもあります。また、過去の実績に関する数値等は、将来の結果をお約束するものではありません。この資料の著作権はスパークス・アセット・マネジメントに属し、その目的を問わず書面による承諾を得ることなく引用または複製することを禁じます。



『 ぱんだより 』

スパークスのアジア地域における情報発信レポート



訪日を後押しする日本の取組み

海外修学旅行のメインイベントの一つに、現地の学校訪問があります。これは同世代の学生達との国際交流を目的とするため、中国側からは、日本の学校に国際性を求める声も出てきているようです。

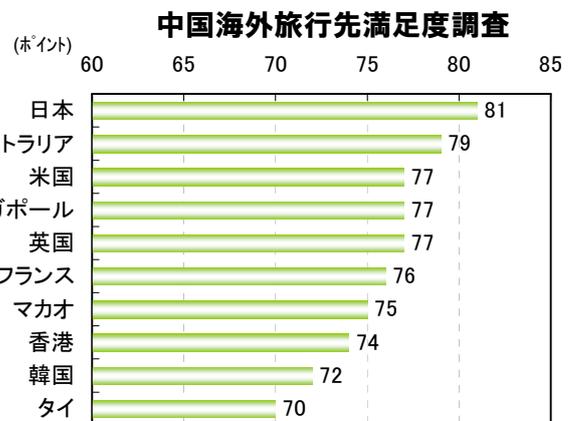
それを受け日本政府は海外からの訪日修学旅行に関して、いろいろな取組みや支援を国内外で行ってまいりました。アジアからの訪日については順次査証免除措置がとられてきており、これまでに、中国、韓国、香港、台湾からの修学旅行について免除されています。また、「ビジット・ジャパン・キャンペーン」の一環として実施本部事務局と国際観光振興機構とが連携し、訪日修学旅行の促進のため、海外にて修学旅行セミナーや学校関係者の招請事業等を実施してきました。

こうした支援を行うと同時に、日本政府は近隣諸国の修学旅行に資金面での支援も行っています。例えば台湾やシンガポールなどに対しては、引率者の旅費補助や保護者の収入の少ない学生について補助されるというものです。このように日本政府では、海外からの訪日修学旅行に対し、国をあげてサポートする姿勢が見られます。今後、更なる日本政府や日本の学校の取組みが注目されます。

ビジネスチャンス

「Nielsen中国海外旅行報告」によると「旅行したい国」1位は香港(46%)です。そしてシンガポール、タイ、フランスなどに続き第8位が日本(5%)となっています。一方、海外旅行先に対する満足度調査の結果を見ると、1位日本、逆に8位が香港という評価になります。

修学旅行は一般的な観光旅行より、イベント性に富んだ行事で、企画側と受け入れる側に高い創造力が要求されます。サービスに自信のある日本にとってはむしろ大きなビジネスチャンスとなり、今後拡大する余地も大きいのではないのでしょうか。



出所: AC、Nielsen、2007年

【編集後記】中国では一人っ子政策の影響からか、3G携帯や海外で使える「銀聯」カードを手渡す両親もいるようです。私の修学旅行は奈良、京都でした。友達と過ごせる数日間が嬉しくて、やんちゃをして先生に怒られた思い出があります。それにしても海外旅行とは何とハイソなことでしょう。

(知恵越え悟る&見に行っちゃイナ)



本資料は、スパークス・アセット・マネジメントが情報提供のみを目的として作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。また特定の有価証券の取引を勧誘する目的で提供されるものではありません。スパークス・アセット・マネジメントとその関連会社は、本資料に含まれた数値、情報、意見、その他の記述の正確性、完全性、妥当性等を保証するものではなく、当該数値、情報、意見、その他の記述を使用した、またはこれらに依拠したことに基づく損害、損失または結果についてもなんら補償するものではありません。ここに記載された内容は、資料作成時点のものであり、今後予告することなしに変更されることもあります。また、過去の実績に関する数値等は、将来の結果をお約束するものではありません。この資料の著作権はスパークス・アセット・マネジメントに属し、その目的を問わず書面による承諾を得ることなく引用または複製することを禁じます。